

## ■札幌新川高等学校の実践

### (1) 研究内容

自分たちに関わる諸課題を、自ら考え、責任を持って行動し、解決していくことを通し、子どもの権利として、より良い地域づくりや課題解決に関わっていく実践的態度を育成する。

### (2) 学習活動を通して育てたい力

- ・自他の権利の尊重や意見表明等の子どもの権利について理解するとともに、自己及び他者を尊重する態度を涵養する。
- ・ボランティア活動等の自発的な活動を組織し、すすんで地域の課題に取り組み貢献していくことで、自ら考え行動する態度を育む。

### (3) 実践の内容

#### 【実践①】「カタリ場による自他を尊重する態度の育成」

##### ○ねらい

自尊感情を高め、他者の人権を尊重する態度を涵養する。

##### ○学習内容

札幌市民憲章制定50周年事業の一つとして2年生に実施される「カタリ場」において、近い年齢の他者との対話から自己の内面に迫り、自尊感情を高め、他者の人権を尊重する態度を育成する。



#### 【実践②】「ボランティア体験による、自ら考え行動する態度の育成」

##### ○ねらい

地域の課題解決に自ら積極的ににかかわり、行動する態度を育成する。

##### ○学習内容

札幌市立高等学校生徒会リーダー交流会において、「市立高校全体で取り組めるボランティア」をテーマに協議を行う際、子どもの権利推進課及び市民自治推進課より講師を招聘した。子どもの権利推進課からは、子どもの権利としての社会参加、市民自治推進課からはボランティア活動とは何か、高校生によるまちづくりへの参加について講話をいただいた。他校の生徒とともに考え、議論する体験を通し、人権や子どもの権利に関する理解が深まり、札幌市民の一人として地域の課題解決に積極的ににか

わる意識が高まった。生徒会リーダー交流会のまとめにあたり、実際にボランティアをやってみようという声上がり、札幌市最大のイベントである「雪まつり」でボランティアに取り組むこととなった。

実行委員会の事務局を新川高校生徒会とし、12月に2回、各校生徒会代表者による協議を行い、各校の「のぼり」の作成や、一般生徒への参加呼びかけ等を決定し、実施に向けて準備が進められた。2月8日（土）晴天のつ



どーむ会場において、呼びかけに応じた一般生徒60名を含め、市立高校8校149名がボランティアを実施した。市民や子どもたちに喜んでもらえたことや、若者活動センターのご協力を得て大学生や地域の方々と一緒にボランティアを行ったことで、学ぶことも多く、生徒たちには高い達成感や満足感がみられた。



学校独自の取組として、部活動の生徒を中心に、雪解け時の河川敷のゴミ拾いや、公園の落ち葉拾い、地域の独居老人宅、通学路、バス停の除雪等を行った。

社会の一員として、地域の課題を見つけ、解決し、社会に貢献しようとする実践的な態度を育てることができたのではないかと考えている。

#### (4) 成果と課題

##### ① 成果

生徒会の生徒からは、「市立高校で交流をしつつボランティアができてよかった。子どもたちに喜んでもらえていい体験ができた。夏祭りや落ち葉ひろいなど、さらにボランティアの活動を増やしていきたい。」などの反省があり、また、参加生徒からは、「生徒会の生徒たちがこのようなことを企画して実行したのがすごいと思う。他校の生徒とも仲良くなれた。また、参加したい。」などの声が多数あった。除雪、ゴミ拾い等には、地域から学校に激励が寄せられている。

行政と連携し、専門的な立場から講話をいただいたことで、人権への理解が深まり、意識付けができたことは大きな成果であり、さらに、実際に行動し体験するこ

とを組み合わせることによって、生徒の中に理論に裏付けられた実践的な力が育成されたものと考えている。

## ② 課題

今回の取組を、継続していくことができるよう、札幌市や地域とのさらなる連携体制を構築していくことが課題である。